



ABAニュース

第5号

Association of Biodegradable-Plastics for Agriculture NEWS

農業用生分解性資材研究会 機関紙（年2回発行）

編集・発行：農業用生分解性資材研究会（略称 ABA）

事務局：〒103-0004 東京都中央区東日本橋3-6-17 山一ビル

社団法人 日本施設園芸協会内

TEL. 03-3667-1631 / FAX. 03-3667-1632

 HP <http://www.jgha.com/conference/aba/ABA.htm>

今号の内容

農業用生分解性資材 農材店・JAアンケート

農業用生分解性資材研究会の活動報告

農業用生分解性資材研究会に日頃よりご支援いただき、有難うございます。ABAニュース第5号を発刊致しますと同時に、恒例となりましたセミナーを本日（11月5日）開催する運びとなりました。又、普及のための解り易い「農業用生分解性資材の手引き」も発刊のお披露目をいたします。会員相互が連携、又、多くの先生方や報道機関のご協力を頂き、作り上げました。

生分解性マルチはコストが高いと云われ続けていますが、省力・環境の点から多くの皆様の期待の掛っている商材であると考えております。良い面を合わせたトータルでご判断頂ける様、コストダウンについても努力を更に、磨きを掛けてまいります。今後とも、皆様の支援、ご協力を切にお願い申し上げます。

農業用生分解性資材 普及セミナー2009

“テーマ：エコ化に貢献する生分解性資材”

セミナー日程（2009年11月5日 東京都江戸川区・タワーホール船堀）

10:00～10:20 主催者挨拶・「農業用生分解性資材の手引き」発刊にあたって

< 第1部 基調報告と質疑応答 >

10:20～11:45 基調報告 原料樹脂の現状とエコ化に向けた動き

レポート1 原料樹脂の現状

レポート2 植物由来樹脂への取組み状況

レポート3 ポリ乳酸の現状と展望

レポート4 マルチ普及率2008年度の需要報告と今後

11:45～12:00 原料に係る質疑応答

< 第2部 普及報告とパネルディスカッション >

13:00～14:20 省力・エコ化に向けたマルチフィルムの普及

農業資材販売店、JAアンケート調査・ユーザー意識調査報告

14:20～15:40 パネルディスカッション「アンケート意見・要望から未来を」

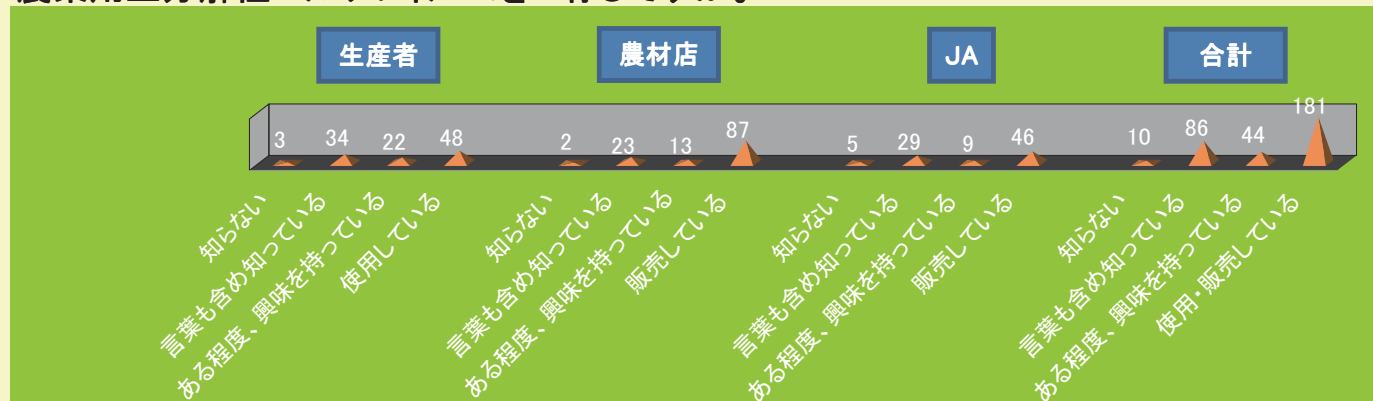
参加者全員による総合討論

農材店・JAへのアンケートによる農業用生分解性資材の認知度調査結果

今年度、全国の農業資材店・JA各500か所へアンケート実施の結果、農材店125、JA89カ所よりアンケート回答が得られました。

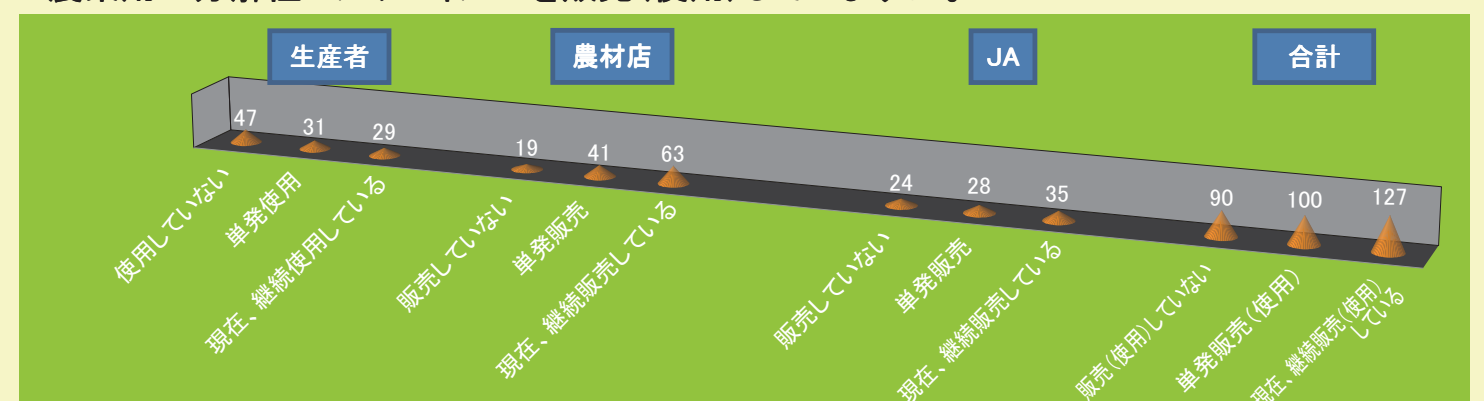
農業用生分解性資材研究会としましては、この回答より得られました貴重なデータを、農業用生分解性資材の現在の認知度として捉え、今後の研究会のセミナー活動や、商品開発に対する貴重な判断材料とさせていただきます。アンケート集計結果が物語るように、農材店・JAを通じ、露地野菜農家の皆様へ着実に浸透しているのも事実ですが、一般マルチと比べた価格差の問題や分解時期のわかりにくさ、強度的な面などの理由で買い控えされているのも事実のようです。ただし、作物によっては、トウモロコシ、カボチャ、レタスなどを栽培されている生産者には、省力が大きな要因ですが、環境、廃プラ処理等の理由で使用をされている実体も浮き彫りになっています。昨年実施した農家のアンケート調査と比較できるよう昨年のデータも掲載しました。

I. 農業用生分解性マルチフィルムをご存じですか。



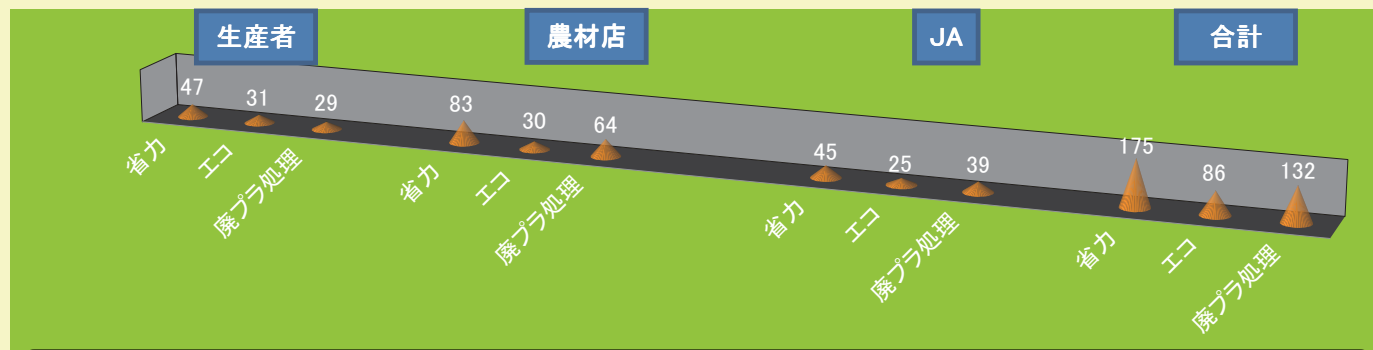
回答者の半数以上が使用・販売しているとの高い数字がでています。アンケート配布数は1,900のため、181/1900 (9.5%)と捉えた方が実体の数字と思われます。回答のなかった人を入れると認知度アップが急務です。

II. 農業用生分解性マルチフィルムを販売(使用)していますか。



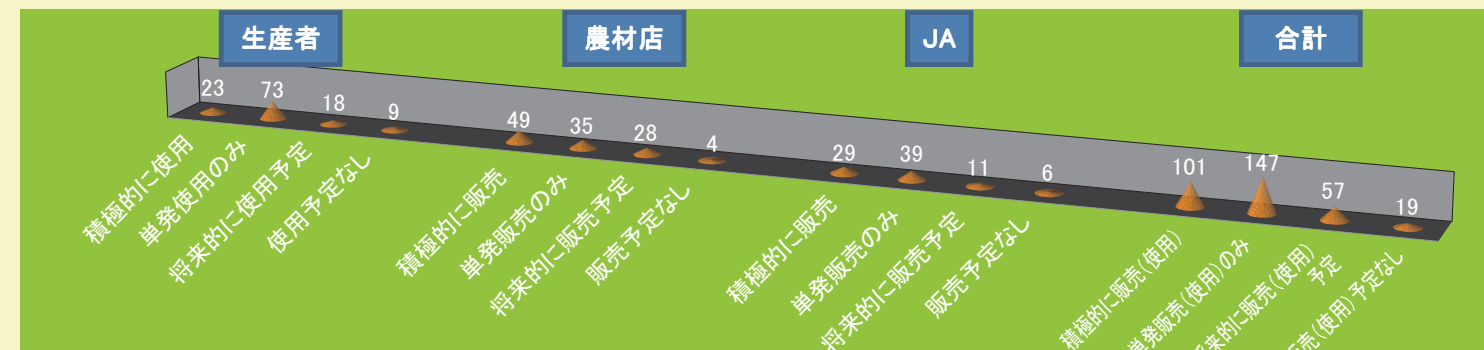
回答者の40%が継続使用中、1回以上単発使用したことがある人は、32%、結果72%の方が使用実績有りとの高い数字がでています。単発使用の方の意見が普及のヒントになりそうですね。

III. どのようなきっかけで販売(使用)されましたか。



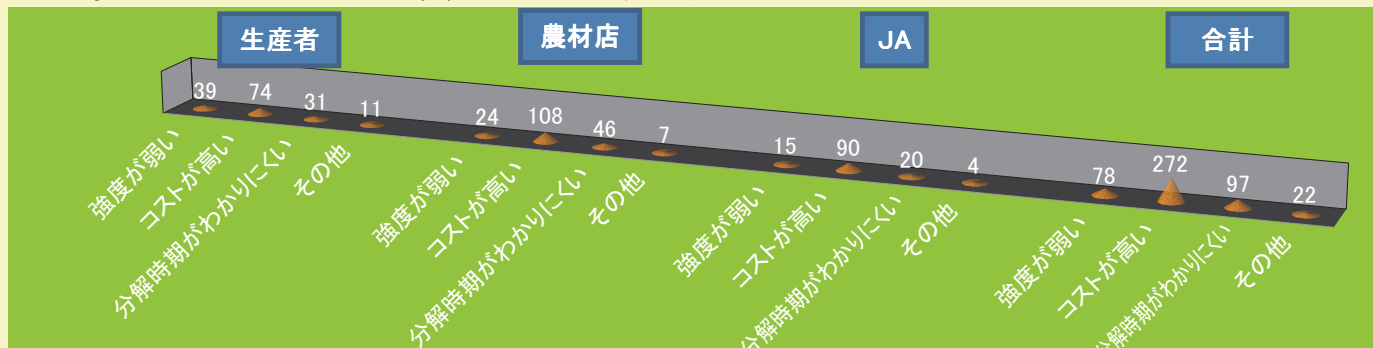
最初の使用きっかけは、省力(剥がす手間が省ける)が44%、エコ(環境に優しい)が22%、廃プラ処理(ゴミが出ない)が34%と有るように、この3つの理由が重なって使われるケースが多いと思われますが、特に省力が一番手の理由なのは納得できる気がしますね。

IV. 今後、農業用生分解性マルチフィルムを販売(使用)する予定はありますか。



回答者の31%が積極的に使うとの回答。なお、条件が見合えば使うとの意見が63%を占めます。コストが大きな点ですが、トータル的な費用対効果を明確に打ち出せば、積極的に使って頂くチャンスがあるようですね。

V. 生分解性マルチフィルムの改良について該当するものに○を付けて下さい。



回答者の58%がコストが高い、他に、強度が弱い17%、分解時期がわかりにくい21%等の回答を得ました。普及する為のネックが一番にコストが挙げられ、益々、資材単体だけでなくトータル的なコストパフォーマンスが必要ですね。ただし、資材単体コスト引き下げも今後の重要な課題ですね。

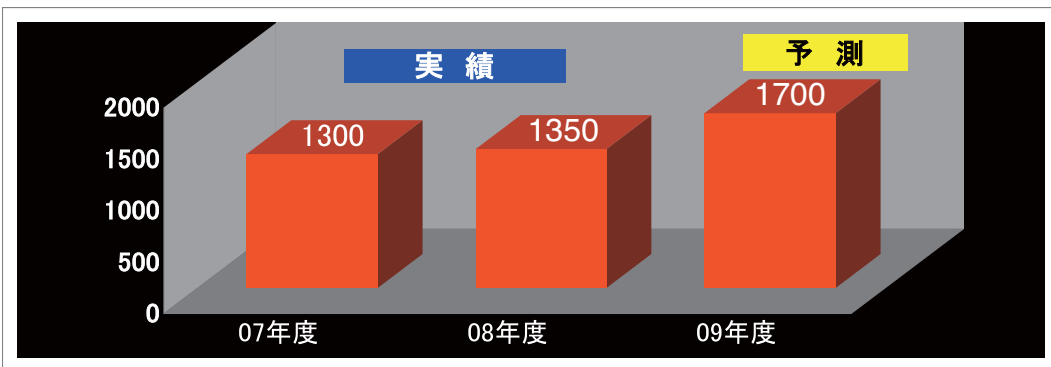
VI. どのような作物に利用されていますか。



農業用生分解性マルチ 販売量の推移 (単位：トン)

2008年度は当初1,500 tを見込んでおりましたが、不況の影響で、新規の需要の買い控えにより1,350 tと需要は低迷いたしました。一度使われた生産者のリピート使用

が中心でした。あらためてリピート使用の製品であることが明確に現われたと云えます。



生分解性マルチ使用後の注意

生分解性マルチ使用后、土壌にすき込む場合、産業廃棄物の処理（中間処理）に該当するとの環境省の見解が本年3月に出されたことは前号でもお知らせしたとおりです。再度確認の意味で掲載させていただきます。

産業廃棄物（生分解性マルチ）の処理を自ら行う場合は廃棄物処理法に基づく処理基準を守る必要があります。

- 使用後の生分解性マルチが周辺に飛散することのないよう、しっかりとすき込む等飛散防止を行う。
- 不十分なすき込みや、分解条件の悪さにより十分に分解せず、地表に目視できるような状態で長く滞留している場合、不適正な処理として自治体から指導を受ける可能性がありますので、すき込み行為の遵守を徹底する。

使われる方、販売される方、すき込み行為の徹底を宜しくお願い致します。ポリエチレンマルチや光崩壊性マルチは、産業廃棄物として適正な回収・処理が必要です。特に光崩壊性マルチは全て回収の必要があります。崩壊した破片を全て拾わなければ産業廃棄物処理法違反となります。

お隣の中国では、白い公害と云って農業用マルチフィルムの処理について大きな問題が起きています。厚さ8μの薄いフィルムを利用しているため、剥がすことが困難でそのまま放置された結果、各地で食糧生産が低下し、10年以前から“白色革命”から“白色公害”と呼ばれる状況に陥っているそうです。被害の大きな地区は発芽率が20%以上低下している状況です（農機新聞平成10年1月1日号より・写真同）。

現在でも200万ha以上の耕地で使用され、その回収率は20～30%で、大きな公害となっている。あまりにも薄いシートには規制・罰則を準備中との報道もあります。

生分解性マルチフィルムは土中の微生物により水と炭酸ガスに分解、消滅します。まがい品の使用にも十分ご注意ください。グリーンプラマークが目安です。



ABAの会員各社

アキレス(株)・岩谷マテリアル(株)・MKVドリーム(株)・(株)グランツ・ケミテック(株)・(株)今野・サンテーラ(株)・サンブラック工業(株)・シーアイ化成(株)・(株)しんよう九州工場・辻野プラスチックス工業(株)・東海物産(株)・日本合成化学工業(株)・BASF ジャパン(株)・三菱化学(株)・三菱商事(株)・ユニチカ(株)・(株)ユニック
 【賛助員】全国農業協同組合連合会（生産資材部）・日本バイオプラスチック協会・全国農業資材商業会